

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書14章7～14節＞

1 道徳的で役立つ教え。しかし、イエス様の話としてはどうなのか？

イエス様は二つの教えを語られています。一つ目(7-11)は、分かりやすく、読んだら誰でも「なるほど、実行しよう」と思うかもしれません。それも悪くはないのですが、イエス様の話にしては妙な気がします。一言でいうと、道徳的、処世術的な話のような違和感が残ります。二つ目(12-14a)は、どんな人を招待してもてなしたらいいかについての教えです。イエス様は「お返し」(12, 14)という言葉を用いられて、もてなしたことに対して返って来る「お返し」が大きいのはどちらだとも問いかげられます。その答えは常識的には驚かされますが、最後を読むと分かります。イエス様は「復活」(14b)する時に神様から「報われる」ことを考えておられるのです。しかし、こちらの話も、「お返し」や「報い」を期待するのは信仰的に正しいのだろうかと思うかもしれません。

2 イエス様の十字架の死と復活を思い、神様の報いを求めて生きる！

まず一つ目の違和感への答えですが、大事なことを一つ加えて考える必要があると思います。このお方、イエス様の死と復活によって、私たちは罪赦されて生かされているのだということを加えて考えるということです。そうしたなら、上席を望めるような自分ではないという謙虚な思いをいつも持って席に着けるでしょう。二つ目の問いに対する答えですが、報いを望むことが全て悪いのではなく、神様からの報いを望むことはいいのです。神様以外のものからの報いを望むことで心と頭が支配される時に人は、私たちはおかしくなって来るのではないのでしょうか。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのもの(生きていくのに必要なもの)はみな加えて(神様から)与えられる」(マタイ6章33節)。神様が与えて下さる、だから、神様から報われること、お返しをいただけることを目指して堂々と生きたらいいのです。全ての場面でイエス様の十字架の死を思い、感謝して謙虚な思いで生きる。同時に、イエス様の復活を思い、神様が私たちにも与えると約束して下さった復活という報い、お返しが与えられることを期待して今を生きる、この二つがキリスト者のアイデンティティであり、それにふさわしい生き方を目指している者たちの共同体が教会なのです。